

こおろぎ

戦後50年

戦争が終わって50年が経ちましたが、私たちはあの悲惨な体験から一体何を学んだのでしょうか？

アルフレッド・アドラーは、

戦後（第一次世界大戦）の荒廃した状況下の子供達の姿を見て、「こんな過ちを二度と起こすまい。」と考え、社会主義運動に走り出しました。ですからロシア革命が起こった時は、本当に喜んだようでした。しかし、ロシア革命は平等と言う名に隠されたファシズムであり、その実、富と権力の集中が起こって裏では殺戮が繰り返されていることをロシア人の妻からの情報で知り、大いに落胆して政治による社会の変革をあきらめたのでした。結局、声の大きい人や力のある人の意見が通るといふ家庭で育った人間が大きくなり、政治家や教師になっている以上、最終的に自分の国の主張（正義）を押し通すためには他者を打ち負かそうとするのだと考え、家庭の中が本当の意味で互いに支え合い協調できるようになることを望んでアドラー心理学をつくり出したのでした。今すぐには出来ないが、きっと何世代か後には人が人をばかにしたりせず、全ての人が相互に尊敬し、相互に尊重し合う社会になることを願って。

しかし、現在の状況は、

確かに私たちの国「日本」は、物質的には豊かになったものの、私などは、豊かになること自体に追われてしまい、物の豊かさによってもたらされると信じてきた「心の安心や豊かさ」を代償として差し出してしまったような気がします。

今、地球を襲っている環境問題を見ると、「人より豊かに」という自分と他のものを分け比較する考えが、ついにはこの地球の未来までも代償として差し出しているのです。

日本は資源のない国ですから、資源を安く仕入れ加工して製品を高く売ることによって利益を得ています。つまり日本の豊かさは途上国の債務によってなりたっているのです。私たちはどこかで「永遠に膨らんでいくバブル」を世界の経済にも見ていないでしょうか？ 日本は国土の66%が山林であるのに「安いから」という理由で1960年代にはフィリピン、1970年代にはインドネシア、そして今、マレーシアの森林の大部分を伐採し、それによって地球規模の環境破壊が起きてきています。これは全く侵略戦争そのものであり、今の豊かさの為に子供達の住む環境をも犠牲にしているのです。

私は材木の輸入や経済の発展、物質文化を悪く言っているのではありません。ただ、自然が作り出した生態系を壊してまで豊かになる必要があるのでしょうか？ 処理方法のない原子力発電はフランスの核実験とどこが違うのでしょうか？ 本当に後の時代につけ回すような豊かさの先取りばかりをしているのでしょうか？

動物は必要以上の狩りをしません。なのに私たちは人間も自然の一部として存在していることを忘れ、豊かさのために自然を乱獲しているのです。

本当に戦争が終わるのは、

「自分さえ豊かなら」という価値観を捨て、奪い合うことから、自然の一部として全てのものと「共存」を始めた時かも知れませんね。

子供達への愛情のあるプレゼントは、玩具ではなく一日車を使わず、クーラーを使わないことや、夫婦が互いを尊重し、自分だけの利益や正義を主張しない生き方を示すこともかも知れません。

相手の意見を最後まで、批判したり評価せずに聴くこと。反論しないこと。出会った人に笑顔で挨拶をすること。そんな小さなことから始めてみませんか？ もう争うのはやめませんか？

講演会と交流会

私は、会社を経営するようになり、心理学と出会い、はがきを書き「こおろぎ」を作るようになって、本当に幸せになったと思います。はたしてお役に立つかどうか分かりませんが、もっともっと講演活動や出会いの場づくりをしていこうと思います。

今、本当に経営が大変な企業も多いと思いますが、行き着くところどんな人と出会い、どんな付き合いをしているかになると思います。家庭・職場・地域から争いをなくしたいと思う力の弱い方達が励まし合い、笑顔で声を掛け合える機会になればと思います。

たとえ2~3人でも出来る限りどこにでも行きます。どうぞ私と出会って下さい。あなたの身近にいる仲間と出会って下さい。皆でやさしい人生を作っていきましょう。

9月1日~3日の沖縄でのプロローグも一人の女性（石原絹子さん）の声掛けで実現しました。

☆ お便りコーナー ☆

プロローグに参加して、マネージメント・ゲームをやったら、「わかりません」「教えて下さい」「もう一度教えて下さい」が言えるようになりまして。この言葉が言えなくてどれほど多くのものを失ってきたか、言ってみて初めてわかりました。私は今日まで「わからなかったらどうかなってしまっているのか？」と考えて独りぼっちになってしまったのです。しかも、どこかでずっと怒っていたような気がしますが、皆に助けてもらって「不完全な自分」になりましたが、本当に楽になりました。

この頃、本当の自分って何だろうと思います。自分ではまだよく見えないけれど、本当はすごく弱虫なんじゃないかって思います。さっと今までの自分なら嫌いになっちゃうのが本当の自分のような気がします。でも今なら認めてあげられそうな気がしています。色々な人から葉書が届くようになり「明るい笑顔」って書いてくれたけど、今までの笑顔が本物だったかさえ分かりません。でも一日も早く本心で笑えるようになりたいです。

増刊号を作るにあたって
障害者の子供を持つ父親の会「四葉会」の井手さんの紹介で、社員達と障害者施設の夜店で焼き鳥屋をやりました。みんな優しくとても幸せな時間でした。せっかく生まれてきた生命、みんな本当に幸せになって欲しい。心から思います。役に立つかどうかで大切にするのなら、歳を取ったら皆捨てられる。戦後50年ということで「こおろぎ増刊号」を作りました。勝手なことばかり書きましたが、文化的な生活を否定しているものではありません。先日、社員達が私の子供達を虫を見せに連れて行ってくれました。一匹づつ捕まえてきてくれたものの、翌日同じ場所に返しに行きたそうです。そんなところに気が付く会社になって嬉しく思います。